

天敵資材を活用した夏秋トマトのコナジラミ類対策

農業研究部

1. 研究の背景

夏秋トマト栽培においてコナジラミ類の発生が問題となっている。現地では薬剤の効果が低下しているうえに、マルハナバチに影響のない薬剤に限られている。そこで、天敵資材を活用し、化学農薬のみに頼らない防除方法を構築し、生産安定を支援する。

2. 研究成果の内容・普及のポイント

トマト圃場にタバコカスミカメ製剤を導入した結果、コナジラミ類の発生が抑制され、防除効果を確認できた。また、黄化葉巻病の発生軽減にも寄与することが分かった。
一方、盛夏期においては、タバコカスミカメの増殖によりトマトの茎や果実に影響を与えるため、注意が必要である。

表1 トマト防除マニュアル（タバコカスミカメ導入編）

月	週	天敵	系統	殺虫剤 (コナジラミ類中心)	影響ハチ数	備考
5	上 中 下	育苗	28	ベリマークSC	1	・ネオニコ系殺虫剤はタバコカスミカメに対して影響があるためNG ・浸透移行+長期残効の農薬はタバコカスミカメに対して影響があるため、NG（ネオニコ、トランス、グレーシア、コルトなど） ・天敵温存植物（クレオメ）をハウス内に植栽する。（地植えorプランター） ・低温ではタバコカスミカメの定着が不十分となる場合があるため、平均気温20℃を越える時期になってから放飼を行う。 ・放飼1ヶ月は影響の小さい農薬を使用する（気門封鎖剤など） ・放飼後1ヶ月以上経過し、トマト株上でタバコカスミカメが確認できない場合は、クレオメの刈取放飼を行う。ただし、トマト株上での多発につながる恐れがあるため、小規模で行う。 ・サビダニの発生に注意。
			28	ブリロソノ粒剤	1	
			-	サフオイル乳剤	1	
6	上 中 下	保護期間	-	サフオイル乳剤	1	・放飼後1ヶ月以上経過し、トマト株上でタバコカスミカメが確認できない場合は、クレオメの刈取放飼を行う。ただし、トマト株上での多発につながる恐れがあるため、小規模で行う。 ・サビダニの発生に注意。
			-	サフオイル乳剤	1	
			-	サフオイル乳剤	1	
7	上 中 下	密度抑制期間	5	ディアナSC	1~3	・放飼後1ヶ月以上経過し、トマト株上でタバコカスミカメが確認できない場合は、クレオメの刈取放飼を行う。ただし、トマト株上での多発につながる恐れがあるため、小規模で行う。 ・サビダニの発生に注意。
			-	バコトップ(タバコカスミカメ製剤)放飼	-	
			-	フーモン	1	
8	上 中 下	密度抑制期間	-	フーモン	1	・放飼後1ヶ月以上経過し、トマト株上でタバコカスミカメが確認できない場合は、クレオメの刈取放飼を行う。ただし、トマト株上での多発につながる恐れがあるため、小規模で行う。 ・サビダニの発生に注意。
			28	ベネビアOD	1	
			23	クリアザールフロアブル	1	
9	上 中 下	密度抑制期間	34	ファインセーブフロアブル	1	・放飼後1ヶ月以上経過し、トマト株上でタバコカスミカメが確認できない場合は、クレオメの刈取放飼を行う。ただし、トマト株上での多発につながる恐れがあるため、小規模で行う。 ・サビダニの発生に注意。
			UN	プレオフロアブル	1	
			-	-	-	
10	上 中 下	密度抑制期間	-	-	-	・放飼後1ヶ月以上経過し、トマト株上でタバコカスミカメが確認できない場合は、クレオメの刈取放飼を行う。ただし、トマト株上での多発につながる恐れがあるため、小規模で行う。 ・サビダニの発生に注意。
			-	-	-	
			-	-	-	

梅雨明け以降はタバコカスミカメの多発に注意！

◎加害リングがトマト2株あたり1個～1株あたり1個確認できた場合は密度抑制の薬剤散布を行う。

以下の薬剤から選択し、密度抑制を行う。

ディアナSC、チェス顆粒水和剤、アフーム乳剤、アニキ乳剤(※)高温が続く時期（梅雨明け～8月末）

カスケード乳剤(※)平均気温が低下する9月以降

【注意事項】

- ・平均気温の大幅な低下(5℃以上)によってタバコカスミカメの頭数が大幅に減少する場合があるため、週間天気予報等を参考にし、気温の低下が予想される場合は密度抑制を控えましょう。
- ・タバコカスミカメに影響の強いグレーシア乳剤は、散布後1ヶ月から再びトマトの株上で定着した事例あり。

3. 期待される効果

- ・コナジラミ類によるすす病や黄色葉巻病の発生を軽減でき、生産の安定化に寄与できる。
- ・圃場での化学農薬散布回数を低減できる。

4. 担当機関連絡先

大分県農林水産研究指導センター農業研究部 病害虫対策チーム
住所: 豊後大野市三重町赤嶺2328-8 TEL: 0974-28-2078